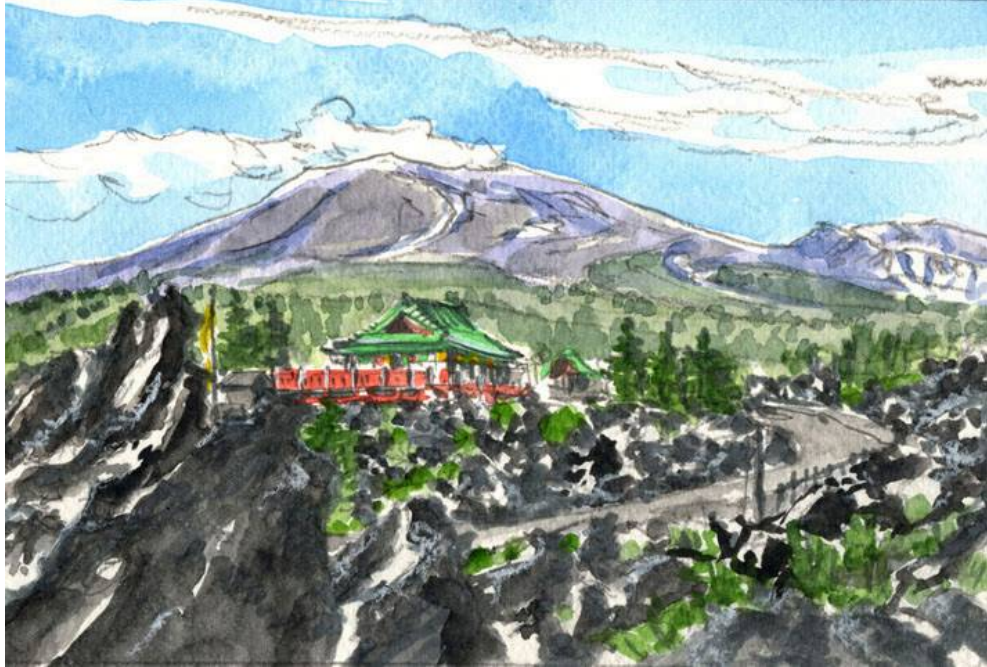
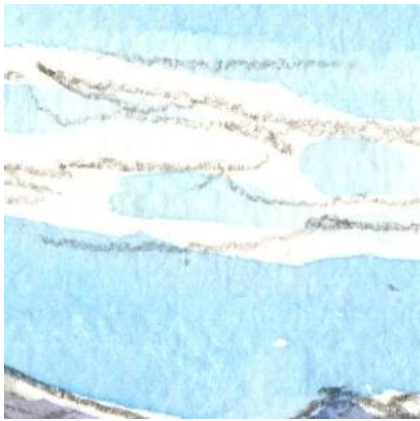


浅間山の北麓に広がる鬼押し出園は 1783年の天明大噴火で流れ出た溶岩が 長い歳月を経て生んだ壮大な火山景観です 黒々とした溶岩塊が波涛のように連なる大地の中に 鮮やかな朱塗りと緑の屋根をもつ観音堂(上野寛永寺別院)が静かに佇み 荒々しい自然の力と祈りの空間とが鮮やかな対比を見せています 背後には浅間山本体が大きく横たわり 山肌に残る雪が火山の高さと厳しさを物語ります この水彩画は 鬼押し出しの奇岩群を前景に 据えながら 観音堂を景観の核として描くことで 破壊をもたらした噴火の記憶の上に 鎮魂と再生の祈りが築かれてきた北軽井沢ならではの風土を表現しています 自然の猛威と人の信仰が一枚の中で響き合う 浅間山麓を象徴する風景です



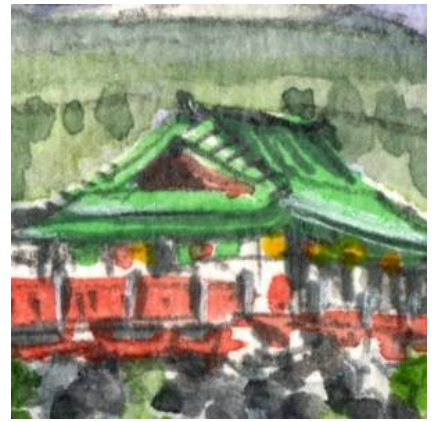
これが完成した絵です



1、空は水色(ホリズンブルー) 雲は塗り残します



2、浅間山の立体感を工夫 噴気は左側に流します



3、観音堂の緑屋根と赤柵が 補色関係で面白い



4、溶岩間の針葉樹は 画の良いアクセントです



5、巨大な溶岩塊のゴツゴツ感を 明暗のコントラストで強調



6、重なり合う溶岩の表現は 難しいです